市民センター館長アンケートの結果の概要

石　塚　　優

1　市民センターにおける子育て支援の推進（問１）

(1)　市民センターのフリースペース

①　ある場合の月の回数

ある場合のフリースペースの月の回数は「１～５回」が最も多く４割を示している。多いところでは20回以上や常設しているセンターもあり、これらが7.8％である。フリースペースが「ない」センターや「無回答」は約半数であった。

図表１　フリースペースの月の回数

	度数	構成比
１～５回	34	43.6
20回以上	2	2.6
施設に子育て支援室がある	1	1.3
常時オープン	1	1.3
親子サロン常設	1	1.3
ボランティア室に畳を敷き常設	1	1.3
ない・無回答	38	48.7

②　ある場合の週の回数

ある場合の週の回数は「１回」が最も多く9.0％である。「５～６回」が5.1％、開館時は常設しているセンターも１か所ある。「ない」センターや「無回答」が８割以上である。

図表２　フリースペースの週の回数

	度数	構成比
１回	7	9.0
２～３回	2	2.6
５～６回	4	5.1
開館時は全て	1	1.3
ない・無回答	64	82.1

③　ある場合の平均来訪者数

フリースペースへの月平均の来訪者数は「30～100人未満」のセンターが最も多く16.5％である。続いて多いのは「10～20人未満」と「100人以上」で各11.5％、「20～30人未満」が7.7％となっている。「０人」はフリースペースが「ない」という意味と思われるが回答通りに既述した。「ない」や「無回答」は約半数である。

図表３　フリースペースの月平均の来訪者数

	度数	構成比
０人	1	1.3
10人未満	2	2.6
10～20人未満	9	11.5
20～30人未満	6	7.7
30～100人未満	13	16.5
100人以上	9	11.5
ない・無回答	38	48.7

(2)　市民センターで活動している育児サークル名など（第１部第１節参照）

(3)　市民センターで定期的に活動している乳幼児親子対象の習い事や趣味のサークル名や活動内容（第１部第１節参照）

(4)　教育委員会登録の子育てサポーターの有無

図表４　教育委員会登録の子育てサポーター数

	度数	構成比
１～４人	36	46.2
５～９人	15	19.2
10 ～ 16 人	5	6.4
いない・無回答	22	28.2

子育てサポーター数は「１～５人」が最も多く46.2%、次に「５～９人」が19.2%であるが、「いない・無回答」が約３割である。

(5)　フリースペースやサークルなど、子育て支援についてセンターとして心がけていること（第１部第１節参照）

2　館長研修について（問２）

(1)　新任館長研修の内容は十分か

新任の館長研修の内容について、「有意義」という回答が最も多く約５割である。続いて「とちらともいえない」と態度保留は約３割、約２割から「参考にならなった」という回答を得た。

図表５　新任館長研修の内容について

	度数	構成比
有意義だった	38	48.7
どちらともいえない	23	29.5
あまり参考にならなかった	15	19.2
無回答	2	2.6

(2) 「参考にならなかった」「どちらともいえない」と回答した人の受けたい研修内容

新任館長研修の内容が「あまり参考にならなかった」人や「どちらともいえない」と回答した人の取り入れて欲しいと考える新任研修の内容は、図表６の通り「館長としての実務」への要望が最も多く９割近い人が研修してほしいと考えている。

次に多いのは「管理監督者研修」で35.3％、「地域組織関係」が23.5％であるが、人数としては６人と４人である。

さらに、「市としての主催事業」について３人（17.6％）、「対人援助技術」「ボランティア・NPO」「その他」については２人（11.8％）、「接遇」については１人（5.9％）であった。なお、回答は複数回答のため、合計は100.0％を超える。

図表６　取り入れてほしい新任館長研修の内容（多重回答）

	度数	構成比
館長としての実務	15	88.2
接遇	1	5.9
対人援助技術	2	11.8
管理監督者研修	6	35.3
地域組織関係	4	23.5
市としての主催事業	3	17.6
ボランティア・NPO	2	11.8
その他	2	11.8

(3) 今後充実して欲しい研修（多重回答）

今後充実を望む館長研修では、「まちづくり活動」への要望が最も多く５割以上である。続いては「生涯学習活動」への要望であるが、これに関しては16.7％と要望する人がかなり少なくなる。これ以外の研修への要望は１割以下である。回答は複数回答であるから合計は100.0％を超えるが、複数回答でありながら「まちづくり活動」以外の研修への要望は低かった。

図表７　今後充実して欲しい館長研修の内容（多重回答）

	度数	構成比
生涯学習活動	13	16.7
まちづくり活動	41	52.6
保健福祉活動	6	7.7
環境保護・環境美化活動	1	1.3
青少年育成活動	7	9.0
防犯・防災活動	3	3.8
その他	4	5.1
無回答	7	9.0

3　まちづくり協議会との関係について（問３）

(1)　まちづくり協議会での館長の位置づけの有無

まちづくり協議会での館長の役割に関する質問であるが、「ある」のは７割、「ない」のが24.4％である。まちづくり協議会があることが前提でセンターを設置したはずであるが、「まちづくり協議会がない」が２センター存在した。

図表８　まちづくり協議会での館長の位置づけの有無

	度数	構成比
ある	55	70.5
ない	19	24.4
まち協がない	2	2.6
無回答	2	2.6

(2)　まちづくり協議会での館長の位置づけ

まちづくり協議会での館長の位置づけがある場合に、その具体的位置づけは「事務局」「その他」が各３割、「顧問」の位置づけが２割、「理事」が14.5％である。

図表９　まちづくり協議会での館長の具体的位置づけ

	度数	構成比
理事	8	14.5
顧問	12	21.8
事務局長	3	5.5
事務局	17	30.9
その他	16	29.1

(3)　自治会や校区社会福祉協議会との協力体制

両方との「協力体制がある」のは64.1％、両方とも「時々協力体制をとる」ことがあるのは24.4％、「協力体制をとることがない」のは2.6％、その他が6.4％である。

図表10　自治会や校区社会福祉協議会との協力体制

	度数	構成比
両方とも常に協力体制をとっている	50	64.1
両方とも時々協力体制をとることがある	19	24.4
両方とも教育体制をとることは無い	2	2.6
その他	5	6.4
無回答	2	2.6

4　「ひまわり文庫」や本のコーナーについて（問４）

(2)　一日の平均利用者数

「ひまわり文庫」の一日平均の利用者数で多いのは「０～5」人であり７割を占める。続いては「６～10人」であり約２割。「ひまわり文庫がない」も３センター存在する。

図表11 「ひまわり文庫」の一日の平均利用者数

	度数	構成比
0～5人	55	70.5
6～10人	15	19.2
11～20人	1	1.3
21人以上	－	－
不明	1	1.3
ひまわり文庫がない	3	3.8
無回答	4	5.1

(2) 最も多い利用者の年齢層

最も多い利用者の年齢層は高齢者（おおむね60歳以上）であり７割を占めている。次に「小・中学生」が17.9％。高齢者が圧倒的に多いが、他の年齢層にも利用者が存在する。

図表12 「ひまわり文庫」の最も多い利用者の年齢層

	度数	構成比
乳幼児	1	1.3
小・中学生	14	17.9
高校生以上学生層	－	－
青年層(18～35歳位)	1	1.3
中年層(36～60歳位)	6	7.7
高齢層(おおむね60歳以上)	55	70.5
無回答	6	7.7

(3) 「ひまわり文庫」や本のコーナーの周辺住民の周知

センター周辺の住民が「ひまわり文庫」や本のコーナーを知っている程度は、「あまり知られていない」と「知られているが、関心がもたれていない」の知らない・関心がないが６割以上を占めている。「良く知られている」のは２割である。

図表13 「ひまわり文庫」や本のコーナーの周辺住民の周知

	度数	構成比
よく知られている	15	19.2
知られているが、関心がもたれていない	21	26.9
あまり知られていない	28	35.9
わからない	6	7.7
ひまわり文庫がない	1	1.3
無回答	7	9.0

(4) 「ひまわり文庫」や本のコーナーの利用者からの要望

「要望はない」というのが５割以上であるが、これを除くと利用者からの要望で多いのは「予約・リクエスト」「本の検索や新刊書など図書情報」である。

図表14 「ひまわり文庫」や本のコーナーの周辺住民の周知

	度数	構成比
貸出冊数・貸出期間	2	2.6
配本の冊数・種類	7	9.0
予約・リクエスト	10	12.8
本の検索や新刊書など図書情報	8	10.3
要望はない	43	55.1
その他	3	3.8
無回答	7	9.0

5 「ひまわり文庫」以外の蔵書（問５）

(1)「ひまわり文庫」以外のセンター内の本

「ひまわり文庫」以外のセンター内の本の蔵書数で最も多いのは「100冊以下」であり３割以上のセンターが該当する。続いて「500冊～101冊」で３割近くのセンターであるが、「1001冊以上」のセンターがある反面、「ひまわり文庫以外には本のコーナーはない」所もあるなど差がある。

図表15 「ひまわり文庫」や本のコーナーの周辺住民の周知

	度数	構成比
1001冊以上	7	9.0
1000冊～501冊	6	7.7
500冊～101冊	22	28.2
100冊以下	27	34.6
不明	1	1.3
ひまわり文庫以外には本のコーナーはない	12	15.4
無回答	3	3.8

(2) 郷土や地域に関する資料・本の蔵書・収集

郷土や地域に関する資料・本の蔵書・収集をしているセンターは１である。蔵書はしているが収集していないセンターと所蔵・収集していないセンターが各４割である。

図表16 郷土や地域に関する資料・本の蔵書・収集

	度数	構成比
所蔵・収集している	8	10.3
所蔵しているが収集はしていない	32	41.0
所蔵・収集していない	35	44.9
無回答	3	3.8

(3) 郷土や地域に関する図書・資料の寄贈

郷土や地域に関する図書・資料の寄贈を「全て受け入れている」センターは４割以上、「受け入れていない」センターが約１割、「寄贈がない」センターが４割である。

図表17　郷土や地域に関する図書・資料の寄贈

	度数	構成比
図書・資料などの寄贈がある。寄贈は全て、一部受入れている	35	44.9
図書・資料などの寄贈はあるが受入れていない	7	9.0
図書・資料などの寄贈はない	32	41.0
わからない	1	1.3
無回答	3	3.8

6　これからの「ひまわり文庫」や図書の利用（問６）

(1)「ひまわり文庫」所轄の図書館に期待すること（多重回答）

「ひまわり文庫」所轄の図書館に期待することで最も多いのは「新刊書の充実」が６割である。次に多いのは「予約やリクエストへの対応」で３割以上が望んでいる。「配本数・配本頻度の増加」に関しても約３割が望んでいる。このような新刊書、配本数と配本頻度、予約やリクエストへの対応は図書館の住民に対する基本的サービスであろう。

図表18　ひまわり文庫」所轄の図書館に期待すること

	度数	構成比
配本数・配本頻度の増加	22	28.2
新刊書の充実	48	61.5
予約やリクエストへの対応	25	32.1
新書の検索や図書館情報の伝達	11	14.1
貸出業務の改善	9	11.5
その他	2	2.6
無回答	8	10.3

(2)　市民センターで利用・所蔵したい図書・資料（多重回答）

「大型絵本・めくり絵など」(57.7%)「郷土関連の図書資料」(56.4%)「新刊書」(48.7%)「児童書・実用書」(41.0%) が利用・所蔵したい図書・資料である。「郷土関連の図書資料」は収集していないセンターが４割以上であったが、利用・所蔵したいセンターは５割以上を示している。

図表19　市民センターで利用・所蔵したい図書・資料

	度数	構成比
新刊書	38	48.7
郷土関連の図書資料	44	56.4
児童書・実用書	32	41.0
大活字本・点字本	9	11.5
大型絵本・めくり絵など	45	57.7
利用・所蔵したい図書・資料はない	3	3.8
その他	2	2.6
無回答	2	2.6

7　センターと社会教育・生涯学習との関係（問７）

(1)　求められる多様な課題のバランス

「バランスよく展開されていると思う」が15.4%、「どちらかというとバランスはとれていると思う」が55.1%など、バランスがとれていると考えているセンターが７割である。一方、「特定の課題に偏りがちになっている」が２割程度であるが、「よくわからない」も3.8%存在する。

図表20　市民センターに求められる多様な役割のバランス

	度数	構成比
バランスよく展開されていると思う	12	15.4
どちらかというとバランスはとれていると思う	43	55.1
特定の課題に偏りがちになっている	17	21.8
よくわからない	3	3.8
その他	2	2.6
無回答	1	1.3

(2)　生涯学習の位置づけ（多重回答）

市民センターでの生涯学習の位置づけは、「大切なことだと位置づけている」「多くの課題・役割の１つだと考えている」の両者に集中している。

図表21　市民センターでの生涯学習の位置づけ

	度数	構成比
大切なことだと位置づけている	41	52.6
多くの課題・役割の１つだと考えている	40	51.3
ことさらに生涯学習について考えていない	－	－
施設（部屋）や資料の提供をすればよいと思う	－	－
よくわからない	－	－
無回答	1	1.3

(3)　生涯学習の中で大切にしている項目（３つ選択）

図表22　生涯学習の中で特に大切にしている項目

	度数	構成比
市民センターが主催する生涯学習事業	71	91.0
住民の自主的・創造的な学習活動の支援	67	85.9
条例・規則・要綱などに基づいて施設(部屋)や備品を提供	13	16.7
「学び」の部分を重視	47	60.3
学資情報の提供	2	2.6
学習相談に応ずる	－	－
住民の学習ニーズの把握	17	21.8
学習成果の地域還元のコーディネート	8	10.3
その他	－	－
無回答	1	1.3

生涯学習の中で大切にしている項目は「市民センターが主催する生涯学習事業」「住民の自主的・創造的な学習活動の支援」「「学び」の部分を重視」の３つの項目に回答が集中した。それぞれ９割、８割、６割といずれも高い比率で生涯学習の中で重視しているセンターが多い。他には「住民の学習ニーズの把握」等が重視されているが、センター事業、学習支援を優先しているようである。

(4) 生涯学習予算についての考え（多重回答）

生涯学習予算については「年々予算縮小で、住民の学習ニーズに答えるのが困難になっている」という回答が４割以上である。また、「十分ではないので、関係部局の企画事業なども取り入れて、補いないながら工夫している」も４割近く占め、予算が不十分と感じている回答を多く得られた。「現状で十分だと思う」と回答したのは15.4％である。現状では多くのセンターが予算の不足を感じているとともに年々減少する予算での運営が難しくなりつつあることを示唆している。

図表23　生涯学習予算についての考え

	度数	構成比
現状で十分だと思う	12	15.4
十分ではないので、関係部局の企画事業なども取り入れて、補いながら工夫している	31	39.7
年々予算縮小で、住民の学習ニーズに答えるのが困難になっている	33	42.3
予算を使い切れずに残すこともある	－	－
生涯学習は自己学習に任せればよいと思うので、市の予算措置は必要ない	－	－
その他	4	5.1
無回答	1	1.3

(5) 生涯学習の企画・立案方法（２つまで選択）

生涯学習の企画・立案方法は「館長・職員・生涯学習推進コーディネーターなどの話し合い」で行っているセンターが９割を超える。これ以外の方法では「主に館長が企画・立案している」が約２割、「決まった方法がない」のが約１割である。これら以外の方法は多くない。

図表24　生涯学習の企画・立案方法

	度数	構成比
主に館長が企画・立案している	15	19.2
館長・職員・生涯学習推進コーディネーターなどで話し合って行っている	71	91.0
センター担当職員か生涯学習コーディネーターに任せている	4	5.1
センターとまち協の役員などが協議して決めている	7	9.0
まち協の生涯学習部が中心になって行っている	1	1.3
まち協の生涯学習部とセンターが相談して決めている	7	9.0
特に決まった方法はなく、ケースバイケースで行っている	9	11.5
住民の有志などから委員を公募し、企画委員会を設けて行う場合もある	1	1.3
その他	3	3.8

(6)「まちづくり協議会」の中の生涯学習部の有無

「まちづくり協議会」の中の生涯学習部が「ある」のは３割、「ない」のが５割であり、「検討中」が１割である。

図表25 「まちづくり協議会」の中の生涯学習部の有無

	度数	構成比
ある	26	33.3
ない	39	50.0
今はないが検討中	8	10.3
その他	4	5.1
無回答	1	1.3

(7) 生涯学習センターや、社会教育主事・主事補との関係

生涯学習センターや、社会教育主事・主事補との関係は「十分な連携がとれている」センターは9.0％と少数であるが、「もっと緊密な連携がとれるようにすべきだ」と考えているのも２割程度ある。「ケースバイケースで連携できればよいので、特に問題は感じていない」が５割以上を占め、連携が必要とは考えていないのと「それらの存在がよく見えない」「あまり参考にならなかった」と社会教育主事・主事補自体があてにされていない面がある。

図表26 生涯学習センターや、社会教育主事・主事補との関係

	度数	構成比
十分な連携がとれている	7	9.0
もっと緊密な連携がとれるようにすべきだ	15	19.2
ケースバイケースで連携できればよいので、特に問題は感じていない	43	55.1
それらの存在がよく見えない	6	7.7
あまり参考にならなかった	4	5.1
その他	2	2.6
無回答	1	1.3

8 センター活動の企画について（問８）

(1) 新規事業の企画・立案の有無

館長になって以来、センターの新規事業の企画をしたことがあるのは65.4％である。

図表27 新規事業の企画・立案の有無

	度数	構成比
ある	51	65.4
特にない	20	25.6
その他	2	2.6
無回答	5	6.4

(2) 新規事業の企画をしたことがある場合

① 企画した事業名（第１部第５節参照）

② 企画の際にまちづくり協議会を除く一般住民の参加の有無

新規事業企画への一般住民参加があったのは64.7％である。

図表28 一般住民の参加の有無

	度数	構成比
あった	33	64.7
なかった	14	27.5
無回答	4	7.8

③ 一般住民参加の方法（多重回答）

一般住民参加の方法で最も多いのは「センター活動を通じて提案する」である。

図表29 一般住民参加の方法

	度数	構成比
公募に応募する	11	21.6
センター活動を通じて提案する	23	45.1
その他	10	19.6
無回答	9	17.6

9 センターの運営について（問９）

(1) 人材確保・育成への特別な取組みの有無

センター活動を活発にするために人材の確保や育成のために、特別な取り組みを半数のセンターがしている。

図表30 人材確保・育成への特別な取組みの有無

	度数	構成比
ある	39	50.0
特にない	32	41.0
無回答	7	9.0

(2) 取り組みの内容や方法（第１部第５節参照）

(3) 事務局体制の工夫の有無

特に工夫している事務局体制については特にないセンターが６割である。

図表31 事務局体制の工夫

	度数	構成比
ある	17	21.8
特にない	48	61.5
無回答	13	16.7

(4) 事務局体制工夫の内容や方法（第 1 部第 5 節参照）

(5) 事業実施に特に工夫していること

6 割のセンターが事業実施に特に工夫している。

図表32　事業実施に特に工夫していること

	度数	構成比
ある	49	62.8
特にない	22	28.2
無回答	7	9.0

(6) 工夫している内容や方法（第 1 部第 5 節参照）

(7) センター活動情報の地域住民との共有の工夫

活動情報の地域住民との共有について工夫をしているセンターは 7 割以上である。

図表33　センター活動情報の地域住民との共有の工夫

	度数	構成比
ある	58	74.4
特にない	16	20.5
無回答	4	5.1

(8) センター活動情報の地域住民との情報共有の工夫の内容（第 1 部第 5 節参照）

10　行政との関係（問10）

(1) センター活動をより活発にするために行政に望むこと

活動をより活発にするために行政に望むことがあるセンターは 6 割以上である。

図表34　センター活動をより活発にするために行政に望むこと

	度数	構成比
ある	50	64.1
特にない	20	25.6
無回答	8	10.3

(2) センター活動をより活発化するために行政に望むことの内容や方法（第 1 部第 5 節参照）

(3) センター活動をより活発にするために企業に望むこと

活動をより活発にするために企業に望むことがあるセンターは 4 割である。

図表35　センター活動をより活発にするために企業に望むこと

	度数	構成比
ある	31	39.7
特にない	39	50.0
無回答	8	10.3

(4) センター活動をより活発にするために企業に望むことの内容（第 1 部第 5 節参照）

(5) 市民センター運営に参加している団体（多重回答）

市民センター運営に参加している団体は「まちづくり協議会」が最も多く92.3％であるが、本来100.0％の計画であった。

次に多いのは「自治会・町内会」で78.2％、「校区社会福祉協議会」は71.8％の参加率である。また「老人クラブ」が62.8％等、多くの団体が参加しているが、図表41の団体以外にも参加している団体は多数存在する。その他の具体的内容を見ると、センターによっては30団体を数える所もあるが、これも地域間で差が大きい。

図表36　センター運営に参加している団体

	度数	構成比
まちづくり協議会	72	92.3
自治会・町内会	61	78.2
子ども会	32	41.0
老人クラブ	49	62.8
婦人会	32	41.0
校区社会福祉協議会	56	71.8
その他	5	6.4
無回答	2	2.6

図表37　(5)の「その他」に記入された参加団体の数

団体数	度数	構成比
1	8	10.3
2	1	1.3
3	7	9.0
4	2	2.6
5	2	2.6
12	1	1.3
13	1	1.3
30	1	1.3
小計	23	29.5
記入なし	55	70.5

(6) 自主財源の有無

センター運営のための自主財源は図表38の通りである。ないセンターが４分の１である。

図表38　自主財源

	度数	構成比
なし・なし（古紙回収資金はまち協）	19	24.4
19年度から実施予定	1	1.3
ある	5	6.4
センター設置の保管庫に収集された分	1	1.3
古紙回収奨励金、古紙回収（年50万以上になる昨年度より実施）	20	25.6
古紙回収、その他フリーマー	3	3.9
古紙回収、空き缶回収	2	2.6
古紙回収、自治会住民負担金	1	1.3
古紙回収、自販機、ゴミ袋（まち協）、集団資源回収、自販機	2	2.6
古紙回収、文化祭バザー、市や社協事業を受けての補助金	1	1.3
古紙回収・自販機収入（研修費や生き生き子ども講座の財源）	8	10.4
古紙回収益、文化祭等バザー収益	1	1.3
今はない（古紙回収は始めたばかり）	1	1.3
今はないがこれからできる（古紙回収を始めて半年）	1	1.3
市予算以外特になし	1	1.3
文化祭で頂く運営費が若干	1	1.3
文化祭バザー収益	1	1.3
無回答	9	11.5

（北九州市立大学都市政策研究所）